

第7回国際小児保健学会学術大会 2023

基調講演

「障害児・者といっしょに生きる」  
日本の NGO として JOCS の歴史・現在・今後  
なぜ JOCS が障害児者に関わってきたのか・関わるのか？

公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会 常務理事

大友 宣

公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会 Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service (以下 JOCS) は、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい(ヨハネによる福音書 13 章 34 節)」という聖書の言葉をもとに、「イエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちをまもり、人々と苦悩・喜びを分かち合う」ことを使命とした団体である。JOCS はワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクトを通して「すべての人々の健康といのちがまもられる世界」を目指している。

JOCS は明治維新以降における医療伝道の歴史から影響を受けた医学生が、第 2 次世界対戦中に学生医療班を中国に派遣したことに端を発している。戦後、日本キリスト者医科連盟が設立され、1958 年、日野原重明ら日本キリスト者医科連盟の代表が東アジアキリスト者医療従事者会議に出席し、その要請に応えるため JOCS が設立された。その中で岩村昇氏はネパールに派遣され、「みんなで生きる」ものがたりを発見し日本へ伝えた。また JOCS はバンコク会議 (JOCS 海外医療協力者会議) を発明し、10 年に一度程度危機感の解明・解決のために行われてきた。JOCS が障害児・者に関する活動としては、ハンセン病、聴覚障害教育、母子保健活動などが前提としてある。その後バングラデシュなどで障害児・者に対する協力を行っている。

なぜ JOCS が障害児者に関わってきたのか 関わるのか？

まずは民間社会事業として、障害児・者に関わる際には、公的社会事業と民間社会事業の関係として、平行棒理論 (グレイ) と繰り出し梯子理論 (ウェップ婦人) があげられる。また民間社会事業として、モデルになる、開拓的である、橋渡しのための実験、公的社会事業に対する批判勢力、ソーシャルアクションを起こし、よりよき社会事業の充実を促進する、社会悪に抵抗するなどがあげられる。JOCS の特徴と、はたしてきたミッションとしては思想的先見性、実践的先導性、日本のキリスト教界の中での役割、特徴ある組織、たくさんの子供を産んできた組織などがあげられる。

「なぜ JOCS が〇〇に関わってきたのか・関わるのか？」という問いに答えるためには、サイモン・シネックのゴールデンサークルをモデルとして提示する。JOCS のゴールデンサ

一クルが考えられると同時に、小児国際保健に係るあなたのゴールデンサークルも考えることが重要である。